航　　跡

文化船ひまわり引退記念誌

1982

資料1

広島県立図書館

はじめに

昭和２９年から移動図書館奉仕を開始した県立図書館では、まず移動図書館車の整備をすすめ、３台のみのり号で陸地部全般にサービス網を拡げていき広く県民に親しまれるようになっていった。しかし広島県では数多くの島しょ部を抱えている状況からして必然的に島しょ部に対する移動図書館船建造の機運を高めていった。

昭和３６年広く島々へ文化を運ぶ船として文化船の名称のもとに社会教育課の所管で建造に着手したわけである。

昭和３７年４月文化船「ひまわり」が就航し、陸の自動車文庫に対応して巡航文庫と名づけられ島の人々に図書を提供するとともに、読書サークルの育成等を通じて生活文化の向上に寄与してきた。

しかし、かって孤立状態であった多くの島々に橋がかかり、本土を結ぶ交通の便がかなりよくなったのを機会に「ひまわり」は昭和５６年７月末で引退することになった。「ひまわり」はこの２０年間に２４市町を回り約４５万人に７０万冊の本を貸し出してきた。全国でもただ１隻だった移動図書館船「ひまわり」の引退にあたり、その足跡を記録にとどめ、記念誌を刊行することにいたしました。

この記念誌刊行にあたり貴重な写真や原稿をお寄せいただいた関係各位に厚くお礼申しあげます。

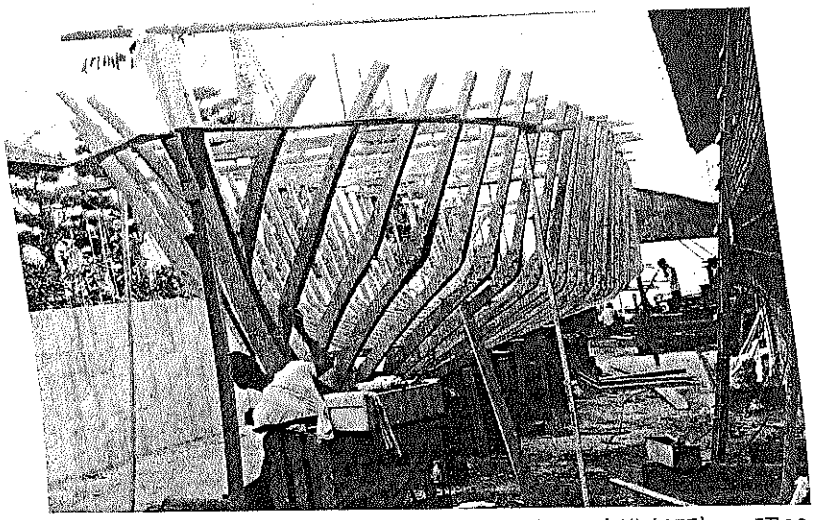
昭和５７年３月

広島県立図書館長　井上弘惟

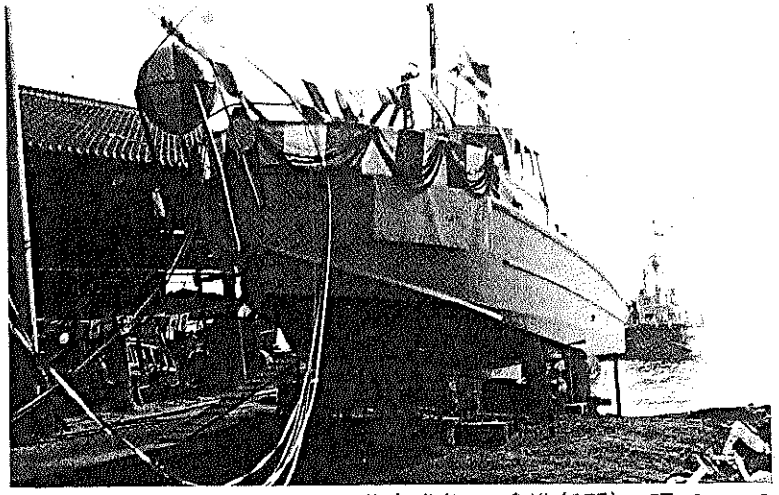
目　　次

写真「ひまわり」の誕生……3
〃 初めての巡回……4
〃 「ひまわり」とともに……6
〃 最後の巡回……11
文化船「ひまわり」の沿革……13
思い出　植田増義　重森　基……15
佐々木　宏　佐原捷三
坂井岩雄　藤田千代子
渡辺　潔
児童の作品　村上晃代　鼻戸久美……26
渡辺真里　佐藤幸子
椋浦小学校児童会
開本千恵子　長岡宜孝
ひまわり同乗記
立教大学教授　清水正三……31
社団法人日本図書館協会次長
小川俊彦
昭和37年度文化船ひまわり航路図……33
昭和56年度文化船ひまわり航路図……35
文化船ひまわり配本所の変遷……37
文化船「ひまわり」巡回統計表……41
「ひまわり」に関する記事索引……42
「ひまわり」に関する記事より……45

「ひまわり」の誕生



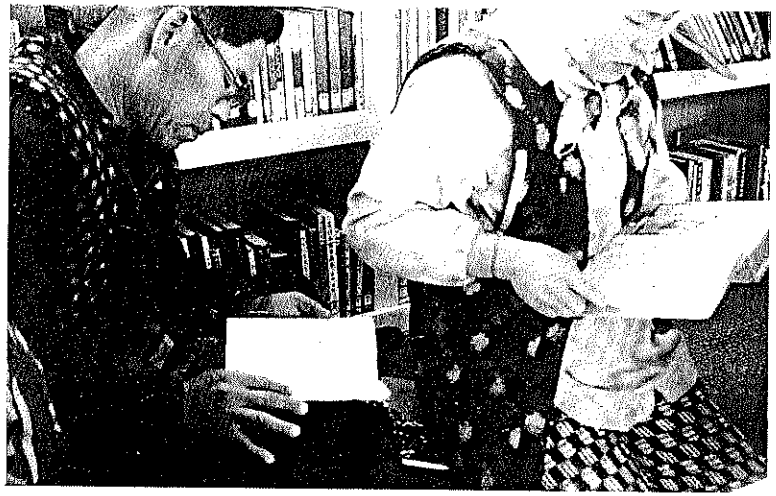
骨組完了(江田島造船所)　昭36



進水式(江田島造船所)　昭36.12.8

初めての巡回

歓迎風景(蒲刈町向桟橋)　昭37.5.8



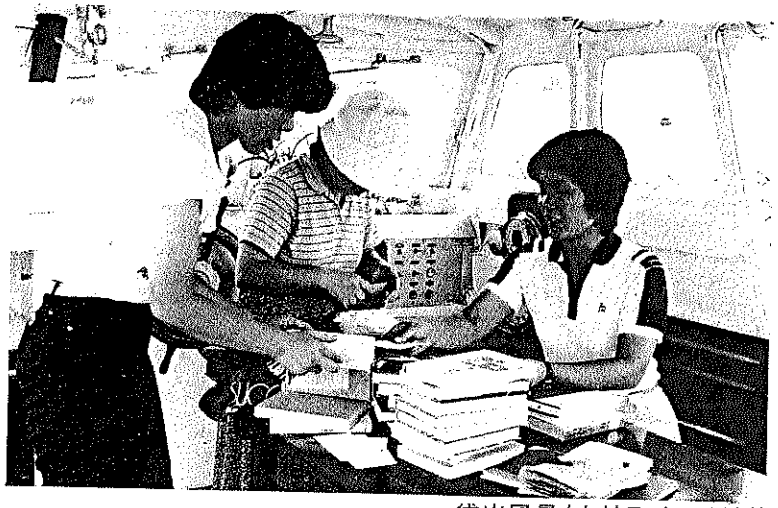
閲覧風景(蒲刈町向桟橋)　昭37.5.8

本を手に帰る人(蒲刈町宮盛桟橋)　昭37.5.9

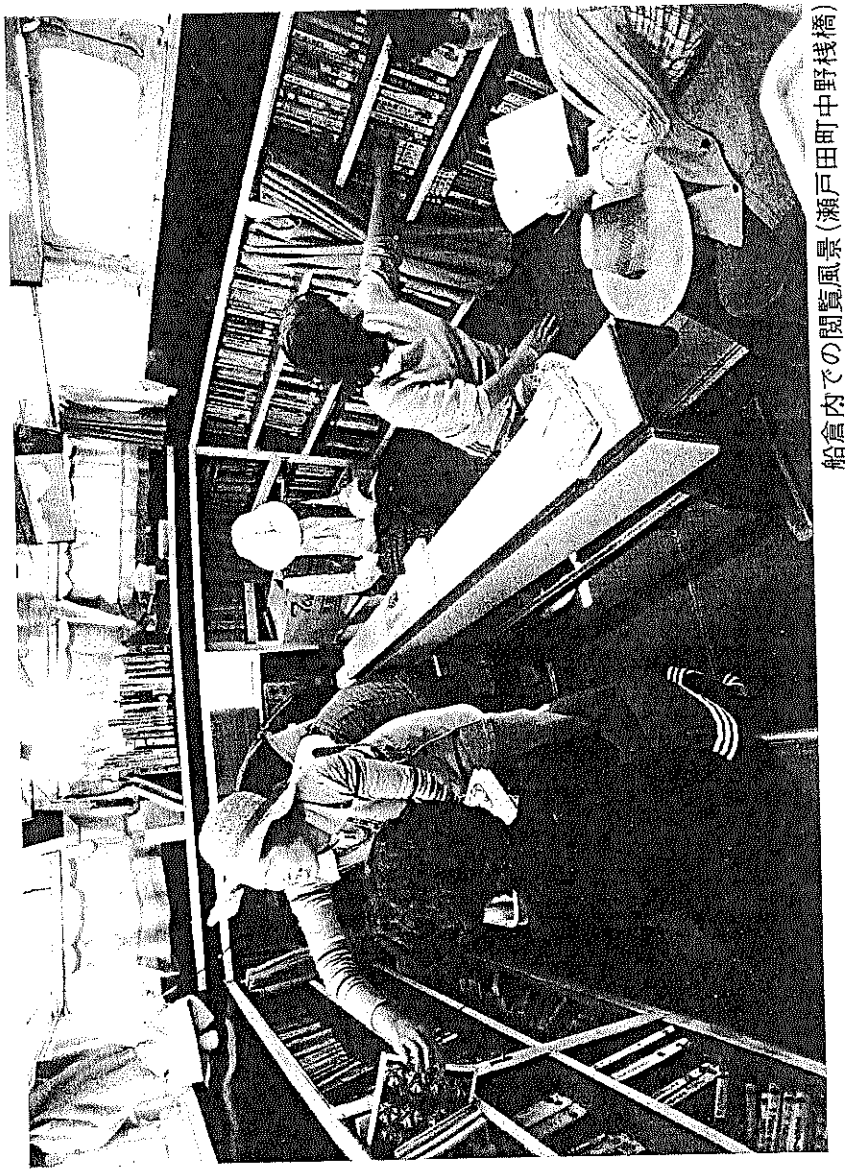
桟橋に寄港中(大崎町大西桟橋)　昭37.5.22

「ひまわり」とともに

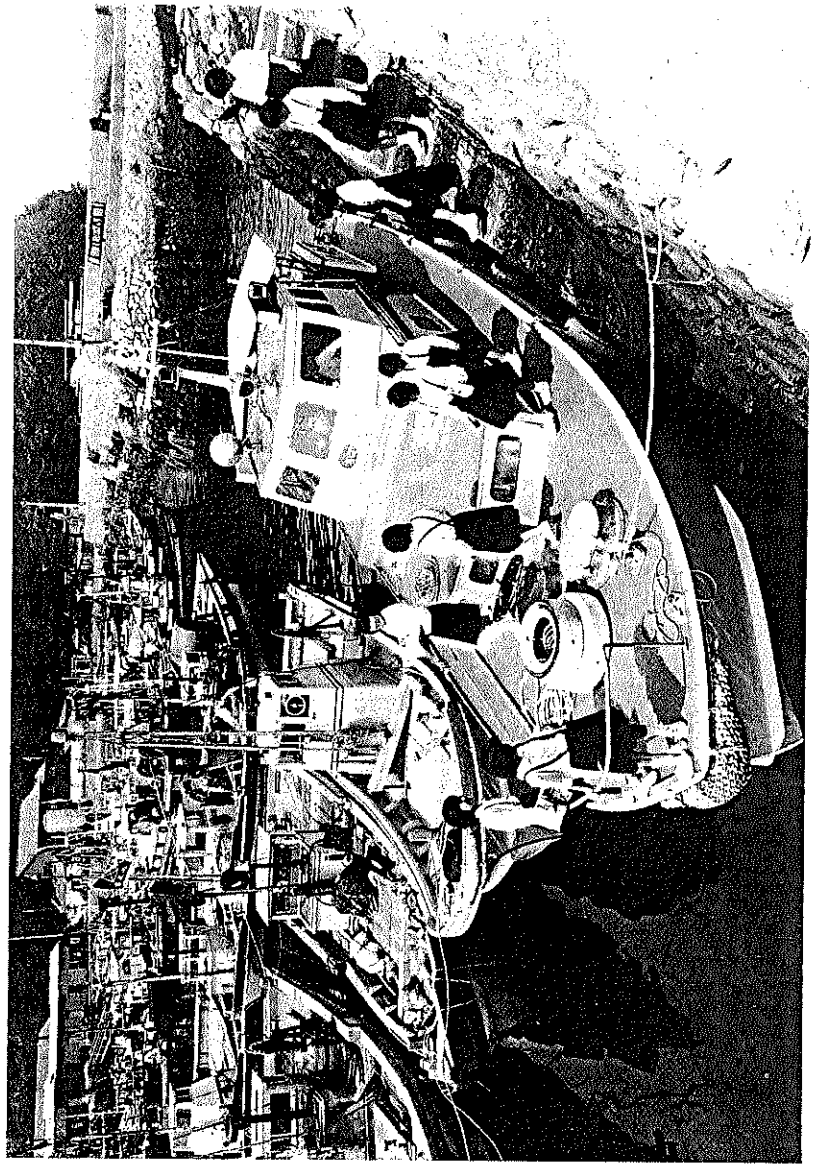
大芝保育園の園児たち（安芸津町大芝波止場）



貸出風景（大崎町大西桟橋）



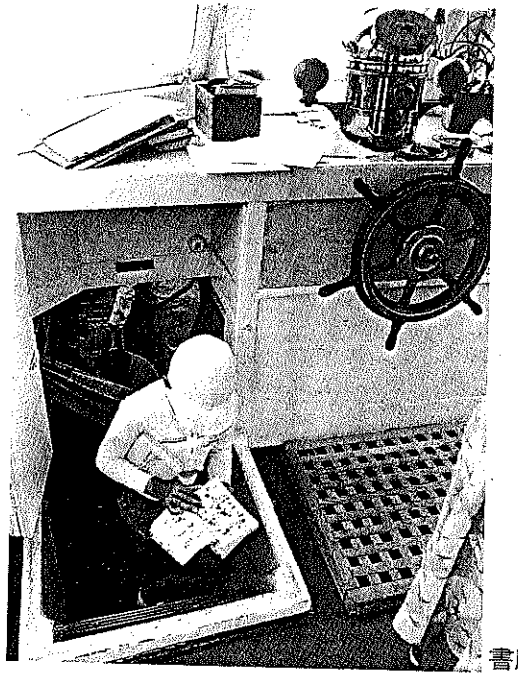
船倉内での閲覧風景（瀬戸田町中野桟橋）



走島小学校の児童たち（福山市走島桟橋）

写生をする子どもたち
（因島市椋浦桟橋）

船上での貸出風景（因島市大浜桟橋）

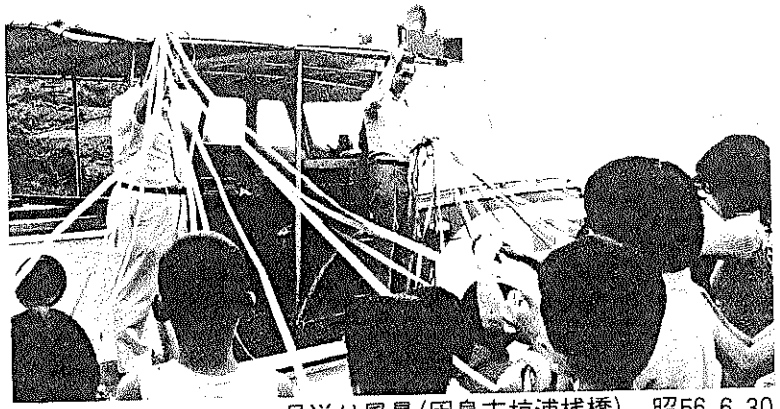


書庫への階段

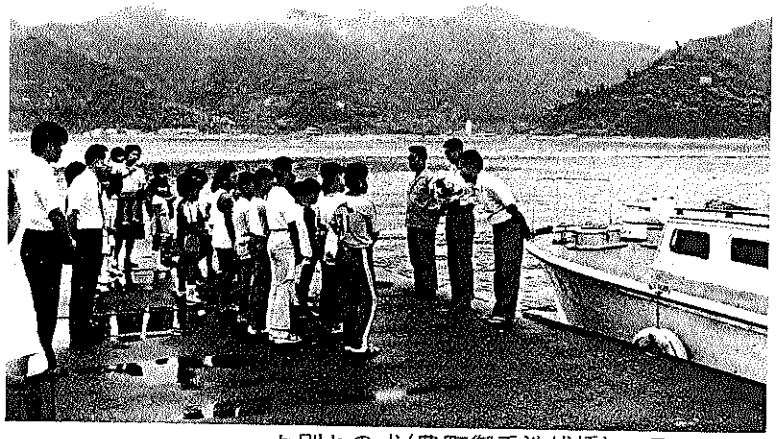
船倉内で作業する係員

最後の巡回

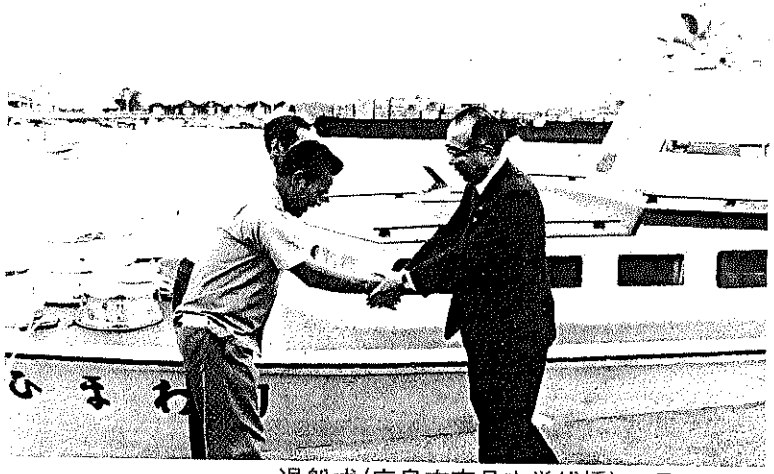
感謝状を受けとる船長(因島市椋浦桟橋)　昭56.6.30



見送り風景(因島市椋浦桟橋)　昭56.6.30



お別れの式(豊町御手洗桟橋)　昭56.7.13

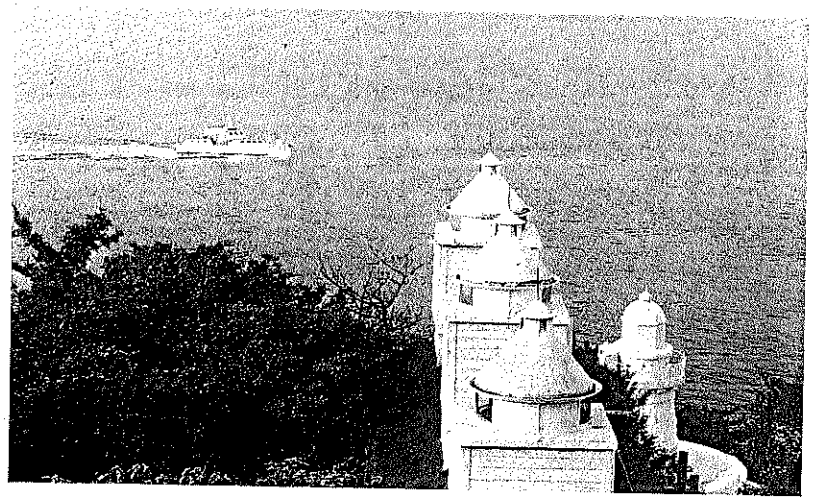


退船式(広島市宇品市営桟橋)　昭56.7.31

文化船「ひまわり」の沿革

昭和36. 9	江田島造船所（安芸郡江田島町）で建造に着手。第６管区海上保安本部船舶技術部、設計及び工事指導。
37. 1. 16	「ひまわり」完成。進水式を挙行。 長さ　14.00m 巾　3.70m 深さ　1.73m 総トン数　19.80t 主機関　ディーゼルエンジン165馬力 速力　8.6ノット 積載冊数　1,500冊
37. 1	「ひまわり」試航。
37. 4. 9	本格的に巡航開始。　乗組員松浦良明船長、新谷吉光機関長、重森基甲板員。
42 ～43	「ひまわり」江波港へ係留。(宇品港護岸工事のため)
44. 8	エンジンをＵＤ６型、マリンディーゼル１８０馬力と交換。
45. 3. 31	新谷機関長退職。
45. 4	重森甲板員は機関長に阪谷甲板員新採用。

昭和45. 8. 2	松浦船長死去。
45. 10. 1	植田増義船長就任。
47. 2. 9	阪谷甲板員退職。
47. 4. 1	益田勝美甲板員採用。
52. 4. 1	益田甲板員県立図書館へ転出。
56. 7. 31	最後の巡航（宮島コース） 宇品市営桟橋で退船式を行う。
56. 12. 25	「ひまわり」が豊田郡瀬戸田町で文化財として永久保存されることになり引き渡しが行われる。



思い出

「ひまわり」とともに

文化船「ひまわり」船長
植　田　増　義

昭和４５年１０月、ふとした御縁から２代目船長として「ひまわり」に乗船することになりました。

この「ひまわり」は島の人達に県立図書館の図書や映画会や講演会を開くための文化活動を届けるために建造された船です。

県内の島々を５０日に一度、定期的に巡回してきました。当時は、いくつかの港に桟橋がなく、岸壁にあゆみ板を使って、船の乗り降りをしたものです。風で波の高い日など、船内の本を借りるため訪れる婦人や子どもの危なかしい渡り方をみて、私は、この人々が、海に落ちないように気を使ったものです。一方、波静かな暖かい日、一航海の最後の寄港地を訪れたとき、元気な子どもたちの澄みきった多くの瞳の出迎えを受ける時などは、船旅の疲れも吹き飛び、その日は船辺に伝わる波の音を聞きながら深い眠りについたものです。

ふりかえれば、吹雪の常石港に停泊していた時のことですが、暗やみの午前３時、網を推進器にひっかけた漁船に気づき、われわれが加勢して網を取り除き、喜ばれたこともあります。一年のうち春一番や、台風が襲来する季節には、天候が変わりやすく、海の荒れることが多いので、ラジオ放送によって天気図を作り、空模様を見つめながら安全運航につとめたものです。

時も移り変わり、島から本土へ橋もかけられ、一方、カーフェリーも発達したため、この活動は移動図書館車「みのり号」にバトンタッチすることになり、２０年間瀬戸の島々に、文化の夢を運んだ「ひまわり」も引退することになりました。

１０年余にわたって生活を共にした私は「ひまわり」への愛着が断ちがたく、解体されることのないように祈っておりました。

このたび瀬戸田町の御厚意によって、沢の浜辺に老体を保存される

ことになりました。まことに嬉しい限りです。

新しい年の春を迎えるにあたり、私も３０年間に及ぶ海の生活に別れを告げることになりました。幸い「ひまわり」にひとつの事故もなく、無事に引退できたことは、皆様方の力強い御支援のおかげと心からお礼申し上げるものです。

「ひまわり」とともに

文化船「ひまわり」機関長
重　森　　基

十年一昔、月日のたつのは早いもので文化船ひまわりが就航して２０年になり、このたび移動図書館車みのり号に後を託すことになりました。私はひまわりが就航すると同時に乗務員になり、９万キロに及ぶ航海の間には様々な想い出があります。思いうかぶままにいくつかお話ししてみたいと思います。

荒天の霧のたちこめる海上を安全を期してゆっくりすすんだり、台風シーズンには天気予報に注意し、たとえば南風が強い時は真夜中でも避難移動し、まんじりともせず高波にゆれる船影を見守ったこともありました。

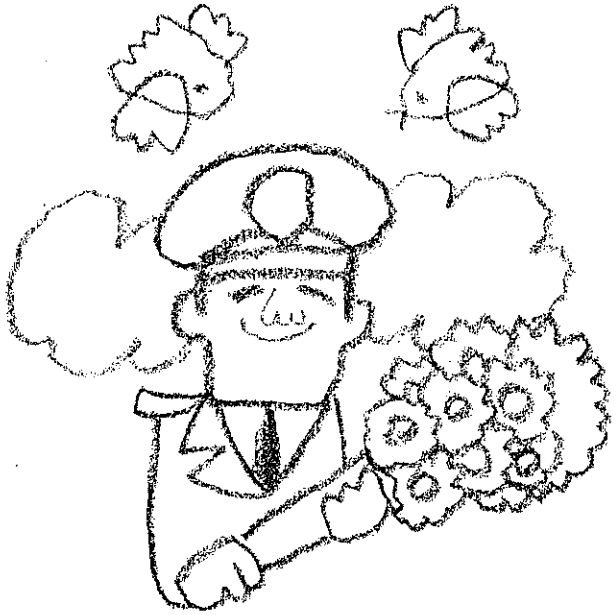
航海途中に推進器が故障し漂流している漁船や機帆船を近くの港まで曳航したり、蒲刈島の三ノ瀬の町民会館が火事になった時は消防団員を現場に運んで消火活動に協力したこともありました。

倉橋島の沖合を航行中エンジンが故障し漂流しそうになったことがあります。それでもこわれたエンジンをなだめすかして、超低速でやっとこさ江田島の造船所のドッグに入ったことでした。

この様な想い出の中でも最も心に残っているのは、島の人々との交流です。就航当時は桟橋のない島もあり、道板を渡して人々の手を取り乗船を手伝ったものです。当時は図書館業務ばかりではなくナトコ映写機を運んでゆき、移動文化教室を開催したり、選挙の時は拡声器を積み込んで投票をよびかける広報活動を行ったものです。

島のいたるところで心暖まる歓迎をうけ、子ども達は絵や作文、航海の無事を祈った千羽鶴などで心を通わしてくれました。就航当時の子ども達も親になり親子二代にわたってひまわりを利用した人もいました。また大柿町の大君に住むおじいさんは４キロの道を歩いて柿浦桟橋までやって来て本を利用され続け、８６才までの出合でした。

２０年に及ぶ文化船ひまわりの活躍は島の人々だけでなく乗組員の私達にも多くの想い出を残してくれました。今後は寄港地でもあった瀬戸田町で永久保存されることになり乗組員として感謝の気持でいっぱいです。



「ひまわり」の思い出

広島県立図書館 司書
佐々木　　宏

昭和３６年秋、文化船〝ひまわり〟は風光明媚なミカンの島、江田島造船所で産声をあげた。長さ１４メートル、白とオレンジのツートンカラーのひまわりは、いかにも高速艇というにふさわしいスマートな船だった。当時、教育委員会社会教育課の一係員であった私は、建造中の造船所へ何度かおとずれ、一日、一日、と船らしくなっていくのをつぶさに見てきたが、建造費５００万円と聞いて、何と船とは高価なものだと驚いたことを覚えている。当時５００万円といえば、土地付きの建売住宅が一軒、手に入る金額で今から思えば夢のような話である。

それから５年、昭和４１年４月、県立図書館へ転勤になり、再び〝ひまわり〟に出会うことになった。以後４年間、この船に乗って、県内島しょ部をくまなく巡回したが、当時、島への橋といえば、音戸大橋が唯一の橋であった。島の人々は〝ひまわり〟が来るのを待ちかねることが多く、あちら、こちらで歓迎された。

乗組員が急病になり、お医者さんに行ったところ〝ひまわり〟の乗組員とわかり、親切にしてもらったこともある。

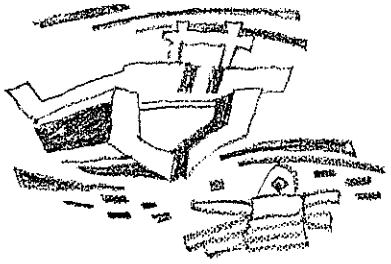
その頃の瀬戸内海は今ほど汚染もなく、桟橋は、フェリーの発着もなく、魚もよく釣れたものだった。

昭和５３年４月、事業課勤務となり、三たび、この船にめぐりあったが、それから３年後、誕生に立ち合った私が、またその最後を見ることは、何かの因縁であろう。

長い歳月、文字どおり、船と苦楽を共にしてきた乗組員には、島しょ部に文化の香りを運んでいるという使命感が、われわれ以上に強いものがあった。台風通過後に、江波沖で、デッキや操舵室の上まで波をかぶったときに、ひやひやしている私をしり目に、さすが船乗りだ〝３０分もすれば波も静かになる〟という言葉どおり波も静かになったこともあった。

巡回のたびごとに、ひまわりにやってきた島の子供達が絵や作文、そして自分の名前を書き入れて折ってくれた千羽鶴、ご婦人が花束等を持って来てくださったこともある。島の人達がひまわりに寄せる暖い心づかいを、私はいつまでも忘れないだろう。

今は静かな波をたたえる、耕三寺で有名な瀬戸田町へ、数々の思い出を秘める〝ひまわり〟へいつの日か会いにいこうと思う。



「ひまわり」引退にあたって

江田島町教育委員会 社会教育係長
佐　原　捷　三

私とひまわり船の出合いは、昭和４６年の夏であった。強い日ざしをギラギラはね返す青く澄んだ海を、白い航跡を描きながら白とオレンジのツートンカラーの小さな船が桟橋に近づいて来るのを、「美しい風景画」を見ているような気持で迎えたことを覚えている。たしかに「ひまわり」は、島によく似合った。文化の香りに接する機会の少ない島の人たちへ、本を届けて廻る「ひまわり」は、島の多い広島県ならではのユニークなものであり、「瀬戸内の風物詩」であったと思う。

「ひまわり」を愛し、その訪れを心待ちしていた読書好きの島民は多くいたが、反面、期待するほど貸出冊数が増えなかったことも事実である。これは、私のような住民への啓発活動を委ねられている行政担当者の努力の至らなかった責任であり、深く反省している。

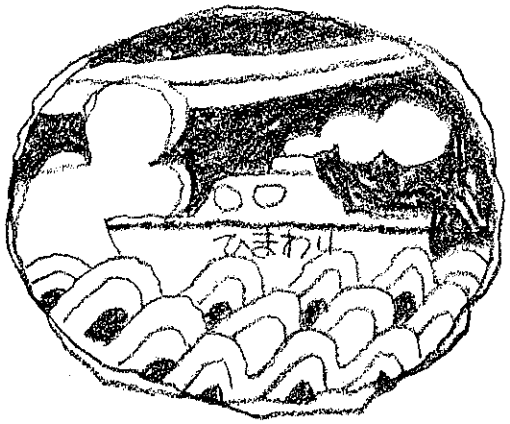
行政改革が論義されるようになり、行政の効率が問われるようになると、経済性、能率性等、多くの点で船はバスに比肩できないであろう。何よりも、住宅の側まで本を届けてくれるバスは、利用者にとって便利である。しょせん「ひまわり」は、行革の波に消える運命だったといえる。

昭和５５年から巡回バス「みのり号」が、島にも巡ってくるようになり、「ひまわり」以上の実績を挙げている。「ひまわり」と同じように「みのり号」も島民に親しまれ、愛されてゆくであろう。

心の豊かさが求められる時代を迎え、読書人口は着実に増加するだろうと予想される。多くの人の目が、物質的な豊かさを追い求める方へ向いていた時期にあって、「ひまわり」は、読書の楽しさ、大切さを人びとに訴え読け、新しい時代へバトンタッチしたのである。「ひまわり」は立派に使命を果し終えたといえる。

行政の減量化が声を大にさけばれているおり、「ひまわり」を懐かしんでばかりもおれまい。が、「ひまわり」とともに、「ひまわり」を軸に温め合った「人の輪」も失われるのがしのびない。「みのり号」を通じて、また新らしい人間関係が生まれ、育つであろうが、「ひまわり」のそれには、それなりの独自の良さがあった。もう、本の借り手を待つ間、釣り談義をすることはできない。

そして、何よりも「瀬戸の風物詩」が一つ消えていくのがさびしい。



「ひまわり」の思い出

木江町教育委員会 社会教育係長
坂　井　岩　雄

木江町は広島県南部竹原市沖１１．５km、大崎上島の南側に位置する人口４８１７人、造船、みかん、観光の小さな町です。

私が、文化船ひまわりと出会ったのは、公民館へ就職してからのつきあいです。木江町は、海岸線に沿って東西に長く、南北に短い町並を成しているため、文化船ひまわりは木江の港に停泊し、翌日、町内３地区の港の桟橋を利用して波にゆられながら島の住民に年間７～８回図書の貸出業務を長年実施してきた。島の読書活動の普及にと雨の日、風の日、濃霧の日と悪条件にもかかわらず、われわれ島の住民の教養、知識を高めるため日夜頑張って働いてくれた文化船ひまわりが、このたび老朽化のため引退すると聞いてさびしく思っています。

船は、島の住民にとってはなじみの深い又日常生活において目にしない日はありません。その船を県教委は主として読書活動の推進に文化船ひまわりと名づけて島の住民の読書を日常生活の中に位置づける役目を果たしてくれました。

○ある婦人の利用者の話———私は文化船ひまわりを知って本を読むことの楽しさを知り文化船ひまわりがくる日を楽しみに待ち、その日はみかん畑に仕事に行っても「ひまわり」が気にかかって仕事が手につかず落ち着かない一日を過ごしました。———と語っていました。

又小学生も学校の授業が終わるのを待って約１kmの道を走ってひまわりまで本を借りにくる子どもも数人いました。

以上のように島の住民の生活の中に位置づいていた文化船ひまわりが廃船の憂目に……とさびしく思っていたところ、風の便りによると、同じ豊田郡内の西日光の耕三寺のある瀬戸田町で文化財として永久に保存されると聞いて一安心している次第です。

現在は文化船ひまわりに変わってフェリーボートを利用して移動図書館車「みのり号」が町内を巡回して住民の読書活動を推進しています。

「ひまわり」の思い出

豊田郡豊町沖友
藤　田　千代子

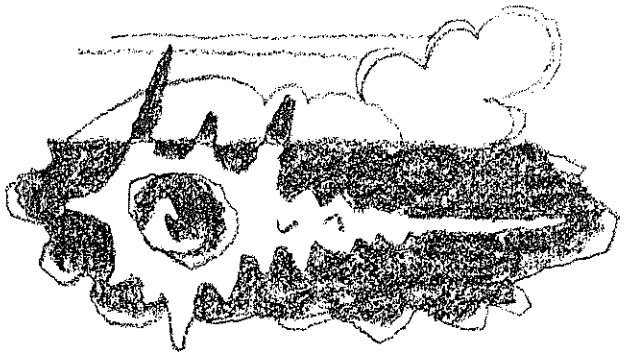
瀬戸内海に点在する小島、広島県の南端大崎下島沖友で、ミカンの花咲く段々畑で埋もれた谷間に出来た地域です。こんな環境の中に読書グループの生まれたのは今より２０年前、テレビ等の文化的施設もなく、人よれば近所の噂位のもので、複雑な社会情勢の理解に苦しみ心のよりどころのない空虚な日暮しでした。読者グループの出発も幼稚なもので、各自所有の本をもち寄ったり、僅かな経費で面白い、肩のこらない本を買ったり、歩き出しました。そして読後の感想を落書帖にたくして感想交換し、話題も徐々に角度を変え始め、読み親しむ姿勢と意慾が高まって来ました。こんな中に、ひまわり船が、どっさり本を積んで、私達の前に現われました。〝夢の様な宝物〟と皆さんは歓喜と感激に咽びました。文学・教養・産業・児童文庫など巾の広い選択の自由と、経費のかゝらない、仕合せに、憑りつかれたように夜を徹して読破するものも出来、またリクエストするものも出て来ました。ひまわり船入港の日は仕事を休んで、早くから沖を眺めて待ちこがれました。読みたい本に出合うからです。

読書熱はエスカレートしてゆくうちに、読書指導を受けたらということで図書館に依頼したところ、中国ブッククラブより紺野先生他４人の先生の派遣に預り、熱心にご指導いたゞきました。事前に配本された本を読み、感想を発表したり、胸をワクワクさせながら固くなってしまったのをユーモアたっぷりのご指導に、会の空気が和んだのも、昨今の様に思います。

その後再三にわたり佐々木館長、河田両先生のご指導をいたゞき、本格的な読書に対する心構えが出来、地に足が、しっかりついた感でした。

しかし、時代の変遷と共に目で楽しむテレビ時代を迎え読書の好奇心も薄れ初めた今日、〝ひまわり船〟引退の報を受け、残念です。スマートな船、宝物を積んだ船、ひまわり船の入港はこの寒村に明るい情緒を運んでくれました。大変有難い、しあわせの事でした。

重ねて感謝申し上げると共に船員さんのご苦労の程をかみしめております。



「ひまわり」日記抄

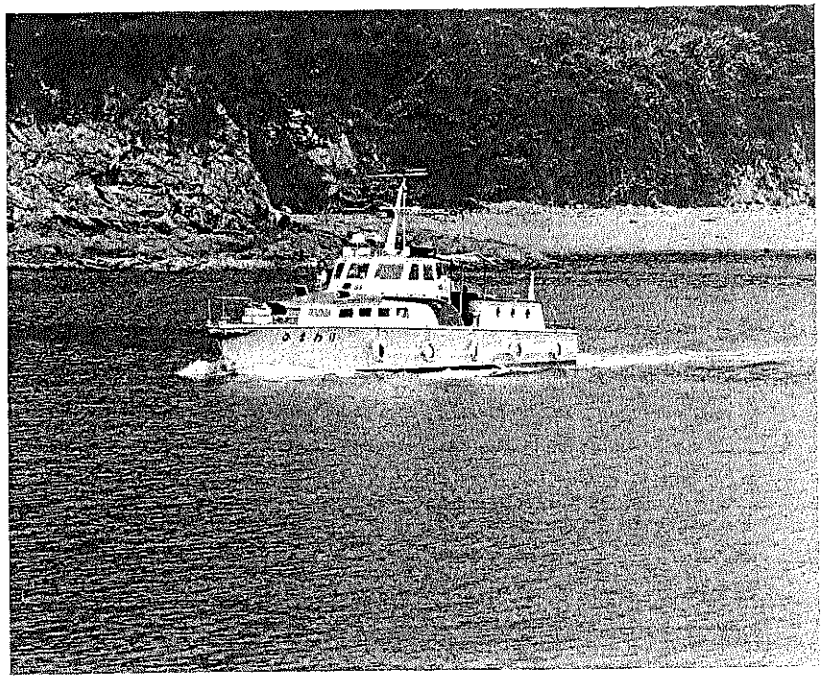
尾道市立百島小学校長
渡　辺　　潔

昭和５４年４月１０日（火）晴　　着任１週間目、移動図書館「ひまわり」が寄港すると聞き、児童と連れだって福田港へ向う。桟橋にはすでに、白い船体に甲板はオレンジ色の明るく瀟酒な「ひまわり」が停泊している。子どもたちは次々と船室へ吸いこまれ、やがて小脇に二三冊の本を抱えて姿を現わす。全く慣れ切った身のこなしかたである。桟橋のそこここに腰をおろしてむさぼるようにページをめくり始める子どもたちの、頭上はるかに高いところでひばりがさえずっている。

昭和５５年７月２２日（火）曇　　夏休み中の「ひまわり」寄港なので、子どもが集まるだろうかと案じていたが、入港３０分位前から三人五人と麦藁帽姿が見え始め、定刻までには全校児童の８割程の顔がそろった。列の後の方には十人ばかり保護者の方の姿も見える。旅行中の子どもに頼まれて借りに来られたとのことである。

昭和５６年５月２６日（火）晴　　ＮＨＫテレビで「ぼくらの図書船ひまわり号」が生放映される。午前７時30分、中継車２台、スタッフ２０人、それに本校職員児童百人あまりが固唾をのんで待ち受けているところへ、朝靄の中から「ひまわり」が姿を現わし静かに接岸する。「おはようございます。」と言いながら次々に船室にはいって本を借り受け、桟橋のあちこちにすわりこんで早速ページをめくり始める子どもたちを、カメラが狙いマイクが追っかける。私もマイクに一言『子どもたちにとって、「ひまわり」は学校の一部である。いつまでも巡回してくれることを切望する。』と。

昭和５６年６月３０日（火）小雨　　「ひまわり」最終寄港日。午後２時から、小雨けぶる桟橋で「お別れ会」を開く。「私たちに夢と知識と希望とを運び続けてくれたひまわりさん本当にありがとう。いつまでも忘れません。」と言う代表の言葉に涙ぐむ児童もいる。鋼（はがね）色の海面に白い航跡をのこして遠ざかる「ひまわり」に、子どもたちはいつまでも「さようなら。」と手を振り続ける。



児童の作品

ひまわり号ありがとう

福山市立走島小学校６年
村　上　晃　代

私たち１年生から６年生までひまわり号に本をかりに行きました。

雨や風のときでも走島に本をかしてくれてどうもありがとうございました。初めてかったとき、本をよんでいても胸がわくわくしてきました。６年間本をかりていろいろな本をよみました。でも一番心にのこっているのは１年生のとき一番はじめにかった本です。一年生の本だから絵の本ばかりかっていました。そして６年生になってひまわり号がこなくなってしまうということを先生にききました。

ひまわり号がなくなるとどうなるのかな。図書室の本だけだったら心ぼそい。でもおじさんのくろうをかんがえたらがまんする。

ひまわり号のおじさん、どうもごくろうさまでした。雨の日も風の日もきてくれてどうもありがとう。いつまでもいつまでも走島小学校のひまわり号でいてください。

ひまわり号のおじさんありがとう

福山市立走島小学校４年
鼻　戸　久　美

ひまわり号のおじさん、広島の宇品の港から走島港まで、たくさんの本をもってきてわたしたちに読ませてくださいました。

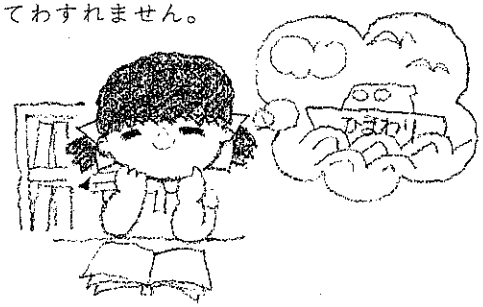
１年の時、先生といっしょに本をかりにいきました。船にわたれないときにひまわり号のおじさんがだいてくれました。わたしはすぐに「ありがとう」とおれいを言うとひまわり号の中にはいって本をかりようとしました。初めて入ったときは、本がたくさんあったからびっくりしました。そして本をかりて帰ろうとしたとき、またげられなかったらまた、おじさんがだいてくれました。２年の時こんどはプラスチックの箱に入っている文庫をかりて雨の日は本を読んでいました。わたしはさいしょはあつい本はようよまんかったけど、このごろはあつい本がすきになりました。３年のときいろいろな本をよんだが一番よかったのが「パティントンフランスへ」だった。二番めは「おんどりこぞう」がおもしろかった。これからも読みたいけどもう読まれなくなってしまう。

ひまわり船

尾道市立百島小学校４年
渡　辺　真　里

ひまわり船は、たくさんの本を船につんで百島に来ます。わたしは、いつも物語の本やおもしろい本をかりていました。時どきわたしが入る時に、わたしが、かりたいと思っていた本をだれかが、かりていたり、おもしろい本がなかったりしていました。だけどようむいんのおじさんがはこに入っている本をもってきてくださいました。だからいい本がたくさんかりられました。

教頭先生が「もうひまわり船は、来ませんが、こんどはバスが来ます」といわれました。わたしは、なんでかわるのかわかりません。山本先生が、「あの船は、もうふるいからかわるんです」といっていました。わたしは、「いけんのう」といいました。わたしは、ひまわり船のことをけっしてわすれません。



ひまわり船

尾道市立百島小学校４年
佐　藤　幸　子

ひまわり船には、おもしろい本、勉強に役立つ本といろいろあります。わたしは、おもしろい本をたくさん読みたいです。でも３さつまでしかかりられないのでざんねんです。だけど、とってもおもしろい本をかりた思いではわすれません。友だちの本と、とりかえっこしたり、よみあいこをしたときとてもおもしろかった思いで、わたしたちみんなは、ひまわり船がなくなるのでとてもざんねんです。ふとい本、ほそい本いろいろ読んだ時わらいがでたりなみだがでたりいろいろな本がありました。いつまでもひまわり船にいてほしかったのに、今度は、船につづいてバスが来るのでひまわりバスという名前をつけました。

バスが来て本がかりられるのでうれしいです。わたしは、バスが早く来たらいいと思います。早く来てください。

ひまわり船いつも本をもってきてくれてありがとう

因島市立椋浦小学校　　児　童　会

ぼくたちはひまわり船がくるのをたのしみにしていたのに、こなくなるときいてざんねんです。

本を読んだことから

本を読む楽しさ、おもしろさなど

本をとおして、いろいろなことを教えてくれました。

おかげでぼくたちもいろいろたくさんのことを、知ることができました。

ひまわり号のおかげです。

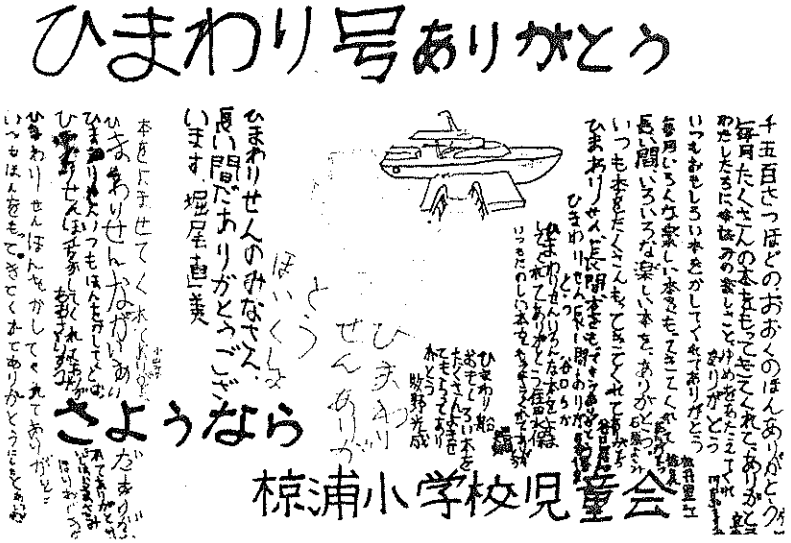
ひまわり号ありがとう。いくらおれいを言ってもいいたりない気持です。そこでそうだんして、ひまわり号ありがとうのことばをみんなでよせがきにして、椋浦小学校児童会のかんしゃじょうにすることになりました。

長い間ありがとうございました。

これからも、ひまわり号に教えてもらった本を読むことをとおして立派なこどもになることをちかって、かんしゃじょうをおくります。

ひまわり号ありがとう。

ひまわり号ありがとう。



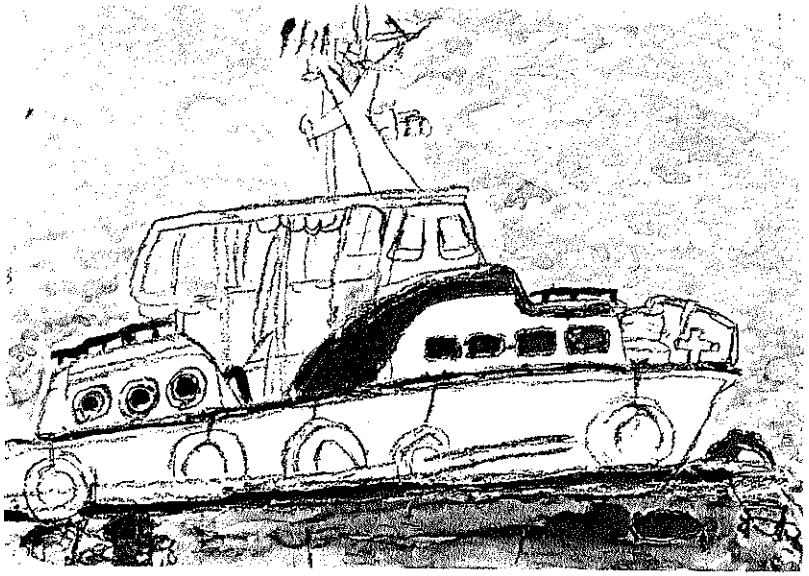
ひまわり船のおじさんへ

三原市立鷺小学校６年
開　本　千恵子

ひまわり船へかりた本をかえしに行ったとき、本をどこにおくかおじさんはおしえてくれました。どこにおくかそれからはよく分りました。いつも水曜日のじゅんかい図書の時になるときてくれています。

船の中には、いろんな本がたくさんあります。かりる本もおもしろそうなものばかりでたのしいです。かりて外へ出るときうしろについているかみを出すのをここに出してから出るんよとおしえてくれました。しんどいだろうと思いますがほんとうにありがとうございました。

おじさんたちがきてくれるのでおもしろい本がいつもよめるようになりました。わたしたちがまだかりられないときも、ずっとみなとについて、ほかの人に本をかしていました。これからもおもしろい本をたくさんかりていきたいです。おじさんたち本当にいろいろな本をかしてくれてありがとうございました。



椋浦小学校　長岡宜孝

「ひまわり」同乗記

立教大学教授
日本図書館協会理事
清　水　正　三

日図協の役員会で偶然広島県立図書館副館長の加藤さんから、「ひまわり号」が今夏で廃止になるという話を伺った。かねてから一度は見学したいと思っていた矢先である。協会の小川さんとも相談して早速加藤さんに同乗方を願い、梅雨明けの７月１４日、東京駅を夜行で発つ。早朝、瀬戸内の安芸津港着。旅館で小休後、加藤さんの案内で船に乗り込む。船はツートンカラーで瀟洒な船型。甲板を下りると図書室、乗員は船長、機関長、職員２名と私共。９時過ぎ小雨の中を出航。１０時晴れて強い陽差しとなる。第１停泊地大芝島では、幼稚園児が本を積んだ手押車を押してくる。「今日ははあ本を返すだけだあ」と係員。第２停泊地は蒲刈島、住民との会話の端々にひまわり２０年の年輪を感じる。夕方、船上で鯛の活造りに舌鼓。夕刻川尻港着。車で宿泊地野呂高原ロッジへ。翌日は、学童養護施設似島学園へ。船が緑の島に近づくと、本と花束を抱えた女の先生と学童１０人程が駆けてくる。ここでも職員は、「ミヤザキ君元気かい。今日は貸されんのよ」。本の返却後、子どもたちから花束の贈呈。真夏の太陽が照りつける桟橋で神妙そうに花束を受ける船長さん。「ひまわり号」廃止とともに、お二人も船を去るのであろう。坊主頭の幼児が船長の腕にまつわって、「センチョウサン、モウコンノ！モウコンノ！」といった声がいまも私の耳に残る。「ひまわり号」が運んだものは本だけではなかったという思いとともに―。

社団法人 日本図書館協会事務局
次長 小 川 俊 彦

オレンジと白のツートンカラーで着飾っているとはいえ、あまりにも小さく頼りなげで、しかも、近づくにつれて彼女は厚化粧をしていることがわかった。

想像力とは勝手に拡大していくもののようで、図書館専用船と聞いただけで、陸上での大型バスのように、あたりを睥睨しつつ瀬戸内の島々を巡る船を想像してしまった。だから眠い目をこすりながら海へ出て〝あれが「ひまわり号」です〟といわれた時には、思いつめていたこととの違いに何ともいわれぬ複雑な感概であった。

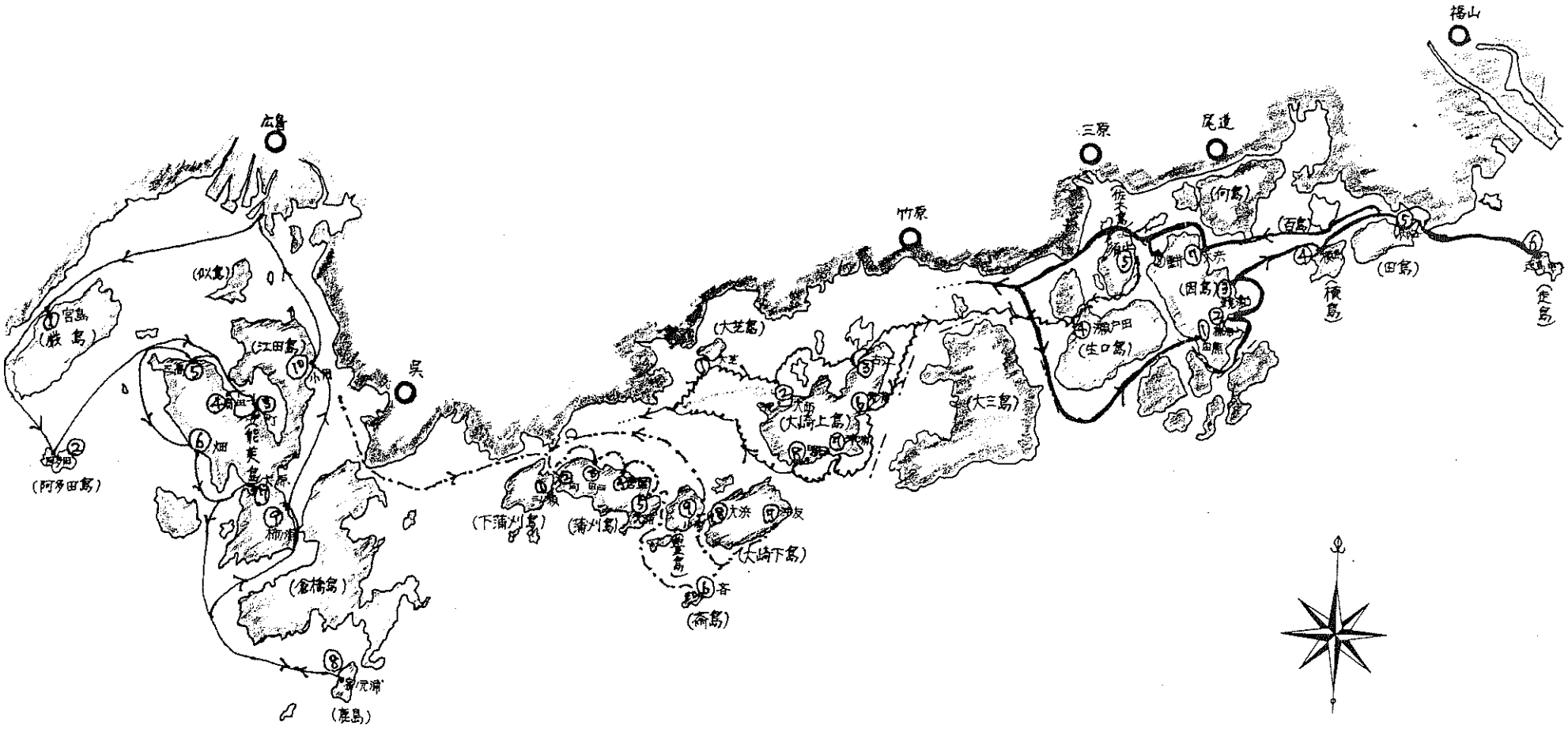
しかし、彼女はけなげであった。私達が乗船した安芸津周辺のゴミの海、最終地の広島近辺の油の海(これも想像を超えるものであった)を苦もなく、２０年近いキャリアを感じさせつつ、いつもの仕事を果たしてくれたのである。

彼女がタンタンとその仕事を果たしたように、船長さんと機関長さんも、無口だけれど、いかにも海の男らしく、しかも私達飛び入りの乗客にも気をつかいつつ、２日間をつきあって下さった。図書館船の仕事には一番長く、深くかかわり、島民との別れも、一番つらかったようで、お二人がこらえているつらさは痛い程感じられた。似島を去る時の汽笛のもの悲しいひびきは、お二人と「ひまわり号」の気持をあらわすハーモニーとなって、いつまでも続き、思わず涙をこらえた程であった。

日常的なこととして受けとめ、行われてきたことが消える時、あらためてその重大さに気がつくことが多い。「ひまわり号」の果たした役割もそんなだった気がする。寄港した島々で人々は彼女が運び続けた文化を心待ちしていたのではないだろうか。人々はさりげなく彼女が去るという事実を受けとめていたようではあったが。

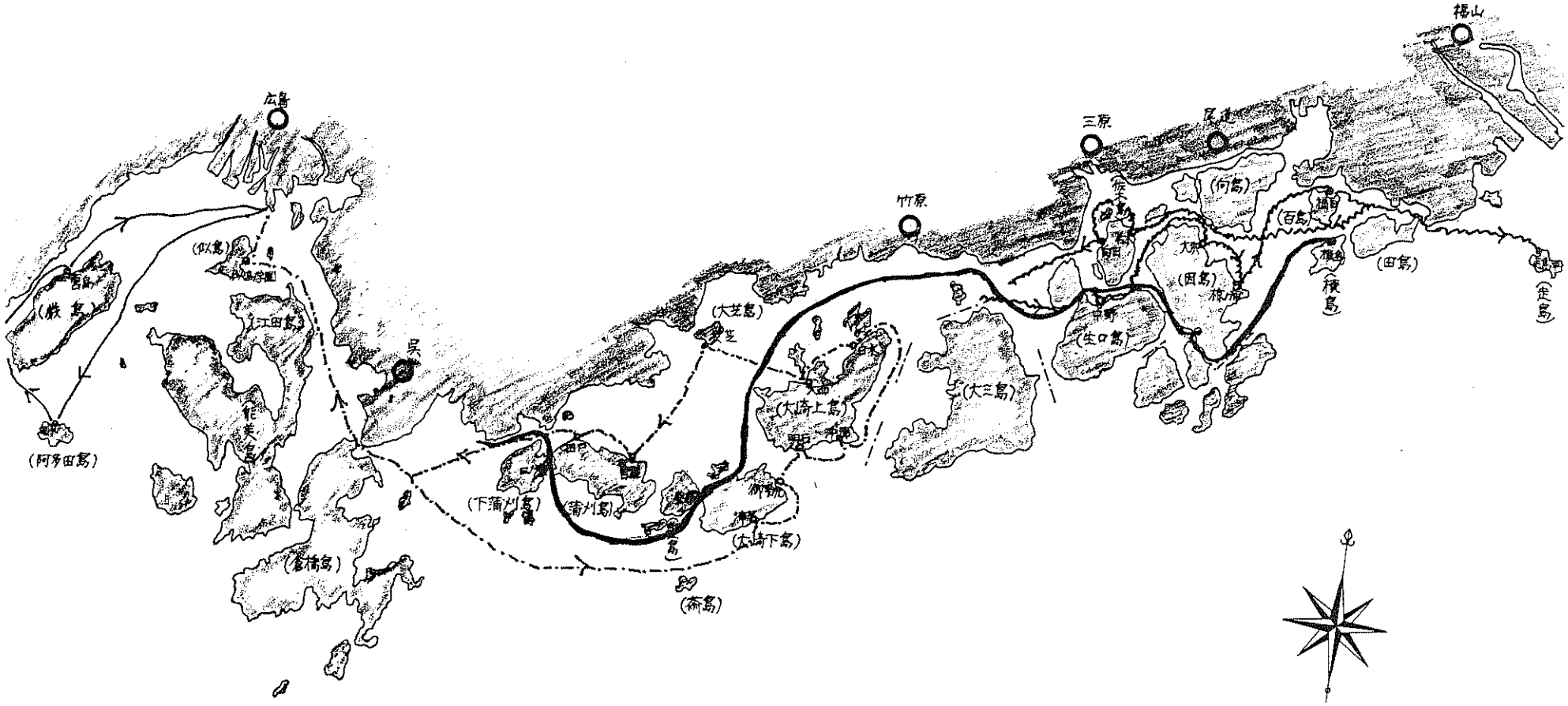
昭和37年度 文化船ひまわり航路図

宮島コース
蒲刈コース
大崎コース
因島コース

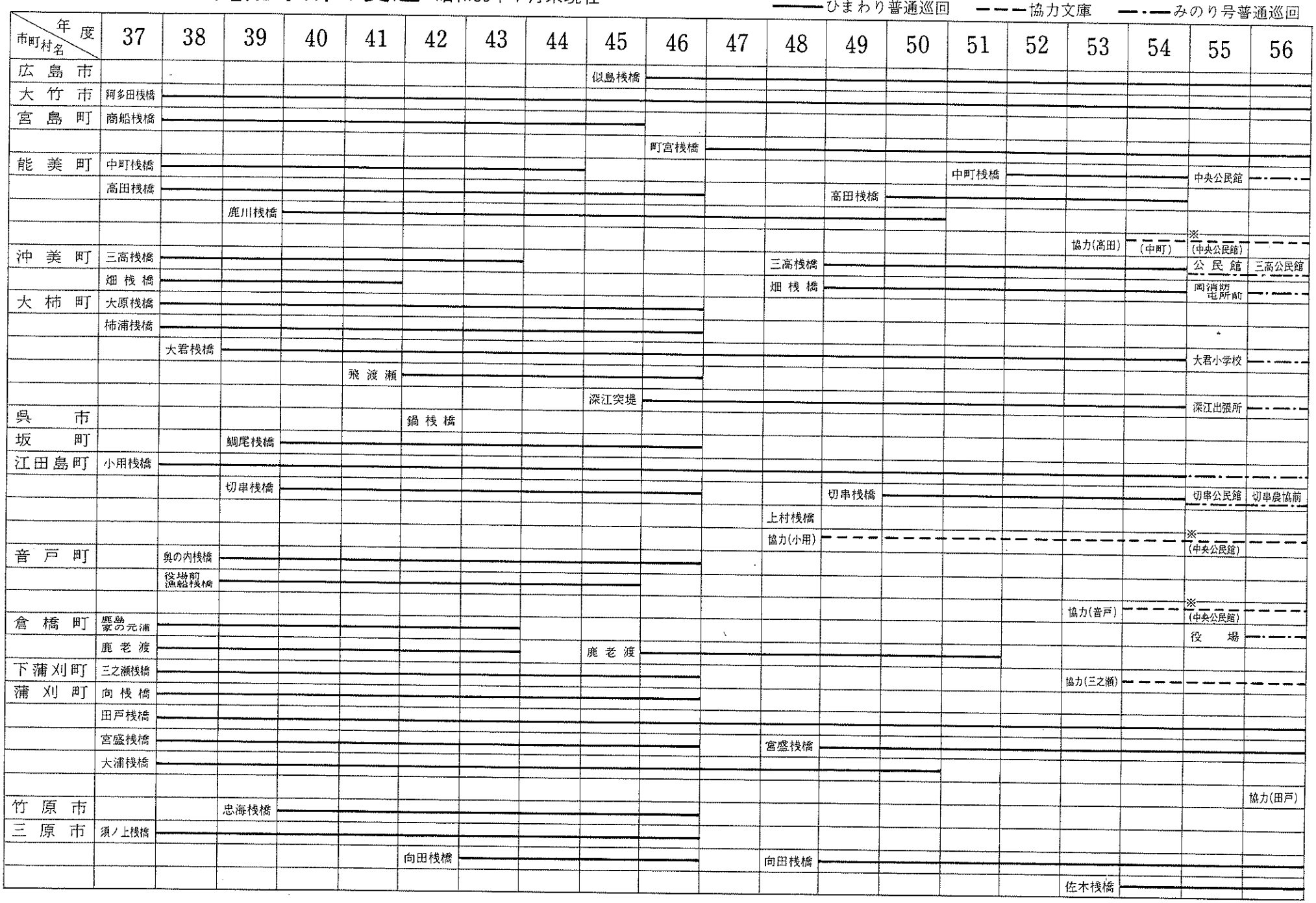


昭和56年度 文化船ひまわり航路図

宮島コース
大崎コース
因島コース
協力下蒲刈コース



文化船「ひまわり」配本所の変遷 昭和56年7月末現在



市町村名＼年度	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56
尾道市									福田桟橋											
因島市	大浜桟橋																			大浜桟橋
	重井桟橋																			
	田熊桟橋																			
	椋浦桟橋				椋浦桟橋													椋浦桟橋		
	鏡浦桟橋																			
		細島桟橋																		
		外浦桟橋																		
			三庄本浦桟橋																	
								協力(田熊)												
安芸津町	大芝波止場																			
川尻町																				
豊浜町	小浦桟橋																			
	斎波止場												斎桟橋							
	大浜波止場																			
																			協力(豊島)	
豊町	沖友波止場																			
		御手洗桟橋																		
		大長桟橋																		
大崎町	大西桟橋																			
東野町	古江桟橋	白水桟橋																		
木江町	天満桟橋																			
	明石桟橋																			
	沖浦桟橋																			
瀬戸田町	瀬戸田桟橋																			
												中野桟橋								
福山市	走島桟橋																			
								鞆桟橋												
内海町	横島桟橋																			
	内浦桟橋																			
																			協力(横島)	
向島町												岩子島突堤								

※は昭和55年度からみのり号による巡回

文化船「ひまわり」巡回統計表

年度	運行状況				開設状況		利用状況	
	回数	コース	日数	走行キロ	配本所	貸出文庫	利用人員	利用冊数
37	6	4	4～5	5,742	36	3	13,357	20,792
38	6	4	4～5	5,520	43	10	17,364	27,027
39	7	4	4～5	5,477	46	6	20,035	31,185
40	7	4	4～5	5,091	46	10	21,112	32,634
41	7	4	4	5,374	48	14	22,261	34,652
42	7	4	4	4,561	47	10	22,303	34,789
43	6	4	4	4,561	46	13	19,590	30,492
44	7	3	4	3,986	39(1)	12	21,987	34,644
45	8	3	4	3,140	42(1)	10	27,604	42,966
46	8	3	4	4,515	41(1)	9	24,933	38,808
47	9	3	4	4,990	24(1)	5	25,823	40,194
48	8	3	4	4,770	31(2)	10	23,597	36,729
49	8	3	4	4,250	32(2)	6	27,716	43,019
50	7	3	4	4,090	32(2)	11	20,926	32,571
51	7	3	4	4,000	31(2)	10	22,707	35,343
52	8	3	4	4,660	30(2)	7	28,495	44,236
53	8	3	4	5,155	34(5)	10	28,521	44,352
54	8	3	4	4,950	34(5)	11	29,385	45,738
55	8	3	1，4	4,645	22(4)	1	17,809	27,721
56	3	3	1，4	2,130	24(5)	2	9,795	15,246
計				91,607	728(33)	170	445,320	693,138

○配本所の（　）は協力文庫（内数）
○56年度は7月末現在

「ひまわり」に関する記事索引

新聞

島々巡る「図書館船」16トン、2000冊を積む　読売36. 1.19
　文部省も補助　7・8月ごろ完成
内海の島に文化の使節　中国36.11.26
　海の図書館「ひまわり」来年お目見え
11日に進水式　初の〝海を走る図書館〟　朝日36.12. 8
島の子の歓声の中に　浮かぶ公民館ひまわり号進水　毎日36.12.12
16日に処女航海へ　県教委ご自慢の〝ひまわり〟　朝日37. 1. 6
島の文化を育てよう　図書約千冊を所蔵し　中国37. 1.13
　〝ひまわり〟16日から就航
本や映写機を積み込む　文化船「ひまわり」　読売37. 1.13
江田島へ処女航海　海の図書館〝ひまわり〟　朝日37. 1.17
生まれ故郷で店開き　「ひまわり」島の子ら大喜び　中国37. 1.17
ようこそ〝ひまわり号〟歓迎されまず小用入港　毎日37. 1.17
Library on the water　ジャパンタイムス37. 1.22
ひまわり号巡回日程　毎日37. 2.11
どっさり本積んで　県立図書館の文化船「ひまわり」　朝日37. 2.17
　2カ月がかり　20の島巡る
文化船ひまわりに図書19冊寄贈　中国37. 2.18
ひまわり号も一役　きょうから投票啓発運動　朝日37. 6.15
瀬戸内めぐる〝ひ号〟離島へも動く図書館　中国37.11.28
　（地平線は青い　70）
県文化船「ひまわり」広島―因島（船で行く　3）　朝日38. 5.10
〝文化船〟で行く　一回二千冊積んで四コースで
　43港巡るひまわり同乗記　中国38. 9. 7
文化船の活躍目立つ　ふえた「文学」　読書グループ38.10.30
図書館活動の問題点　最大の悩み…予算不足　中国39.10.30
十年を迎えた〝移動図書館〟　走行、地球を五周　山陽39.11.25
　海ではひまわりも活躍
内海の文化船（動く図書館　上）　中国44.10.27
ワァー〝図書船〟がやってきた　百島に初の入港　中国(東)44.10.30
文化船ひまわり　文部広報47. 5.13
島の知識支え20年　老朽化で7月廃船　中国56. 5.13
県の移動図書館船「ひまわり」　〃 56. 5.28
　廃船前にスケッチ会　因島・椋浦小の児童
「ひまわり」を絵に残そう　移動図書館船8月に姿消す　読売56. 5.28
姿を消す船の図書館　サンケイ56. 5.30
　20年の勤めを終え　老朽に勝てず7月末廃船
島をめぐって70万冊　お役ご免図書館船　毎日56. 5.31
　瀬戸内9月からフェリーでバスが巡回
サヨナラ海の図書館　届けた70万冊文化の定期便　朝日56. 6. 6
　島々をめぐって20年の「ひまわり号」
移動図書館船ひまわり号　因島で最後の務め　中国56. 7. 2
さようなら「ひまわり」　読売56. 7. 3
　因島・椋浦小児童ら　移動図書館船とお別れ
天風録　中国56. 7.29
「ひまわり号」退船式　図書館船瀬戸を去る広島　〃 56. 8. 1
　20年の歴史に幕　「ありがとう」島の児童ら

雑誌

瀬戸内海をゆく文化船　週刊現代37. 2.18日号
ひまわり号はきょうも走る！　6年の学習(学研)37. 7月号
島をまわるとしょかん船　3年の学習(〃)38.11月号
瀬戸内海の文化船長　紺のセビロで島巡り　海の世界40. 3月号
　（グラビア）島へ文化をはこぶ
島じまを結ぶ船の図書館「ひまわり号」　図書館雑誌50.12月号
　（上森俊也）

姿消す図書館船「ひまわり」　　フォト56. 7.15日号

単行本

広島県の図書館船「ひまわり」　　文学の旅14(千趣会)

広島県の文化船〝ひまわり号〟　　青少年巡回文庫の活動(文部省)

文化船もできて活発になった巡回文庫の活動　　〃

（川島要）

図書館だより—広島県立図書館報—

文化船（ひまわり）	創刊号	1961. 12
巻頭言	第２号	1962. 4
海の図書館　文化船〝ひまわり〟	〃	〃
海に山にくまなくめぐる移動図書館	11	1964. 10
動く図書館巡回日誌	27	1970. 1
ひまわり号（阿多田小６年中野芳久）	47	1978. 3
ごくろうさま！ひまわり船（佐々木宏）	51	1981. 10

36.11.26 中国新聞

内海の島に文化の便節

海の図書館
「ひまわり号」来年お目見え

37.1.6 朝日新聞

16日に処女航海へ

県教委ご自慢の〝ひまわり〟

37.1.17 朝日新聞

初航海に出かけた海の図書館〝ひまわり〟
（広島市上関安部港沖で）

江田島へ処女航海

海の図書館〝ひまわり〟

37.1.17 毎日新聞

海の図書館

ようこそひまわり号

歓迎されまず小用入港

広島県の図書館船「ひまわり」は20トンほどの小型ながら2000冊の図書をのせて島を巡回する。流行作家のものや料理関係に人気があつまる。島の小学生も「ひまわり」へたのしい運動…（撮影／綾川注一）

中国新聞

昭和37年11月28日（水曜日）

（5）

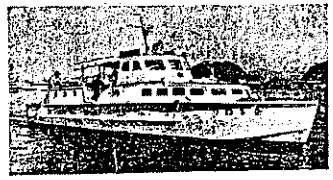
交通と文化

地平線は青い

⑩

瀬戸内めぐる〝ひ号〟

離島へも動く図書館



辺地のめぐまれない人々に憧憬を…移動図書館と同じ役割りを果たす文化船「ひまわり号」

お役ご免図書館船

瀬戸内

9月からフェリーでバスが巡回

島をめぐって70万冊

引退する「ひまわり号」

本がぎっしり詰まった船内の図書閲覧室

56.7.3
読売新聞

さようなら「ひまわり」

因島・椋浦小児童ら

移動図書館船とお別れ

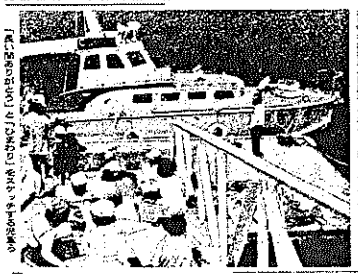
乗員に絵を贈りも別を惜しむ椋浦小児童

56.5.28 中国新聞

県の移動図書館船「ひまわり」

廃船前にスケッチ会

因島・椋浦小の児童

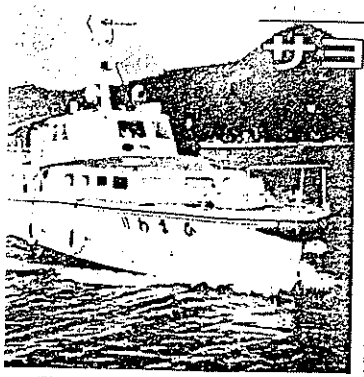


56.6.6 朝日新聞

サヨナラ 海の図書館

―島々めぐって20年の「ひまわり号」―

届けた70万冊 文化の定期便



惜しまれつつ寄港する図書船「ひまわり号」

56.8.1 中国新聞

「ひまわり号」退船式

図書館船、瀬戸を去る 広島

20年の歴史に幕

「ありがとう」島の児童ら

56.7.29 中国新聞

天風録

航跡　文化船ひまわり引退記念誌

昭和57年3月31日発行

発行者　広島県立図書館
広島市中区上幟町2番20号

印刷所　株式会社中本本店印刷
広島市中区東白島町13―15

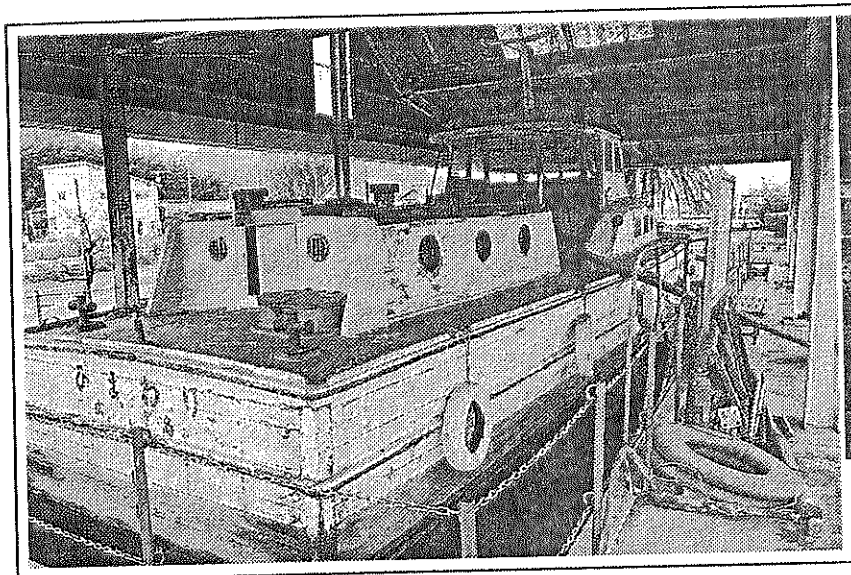
山陽日日新聞　2015年3月21日(土曜日)

60～80年代、島々巡った「ひまわり」

解体工事取り止め　改修保存の道!?

永井医師ら週末に作業

長年の屋外展示で老朽化



全国唯一の移動図書館船

【17日付け「山陽余韻」で一部既報】1960年代から80年代、瀬戸内海の島々を駈け巡り、現在は瀬戸田町で屋外展示されている図書館船「ひまわり」(木造)。市は老朽化などから解体・撤去を決め、先月工事入札を行なったが、同時に地域住民から「知らないうちに消えるのはもったいない。自分達で改修してみるので取り壊しを待ってほしい」と申し入れがあり、解体が中止された。車社会になる前の時代、図書や映画フィルムを届け、島の文化と教育を支えた全国で唯一の移動する図書館船に再び注目が集まっている。　[幾野伝]

移動図書館船「ひまわり」は、広島県立図書館(広島市)が「島しょ部の人達に読書に親しんでもらいたい」と1962年4月に就航した。県立図書館では文化船と呼んでいた。

第六管区海上保安本部船舶技術部の設計、工事指導で61年に江田島造船所で建造。長さ14m、幅3・65m、深さ1・76m、総トン数19・75tの木造船。最大速力は19ノットだった。公募で「ひまわり」と名付けられた。

白色の高速船を思わせるスマートな船体で、1500冊の図書や映画フィルムを積み込んで瀬戸内海の15の島々を走り渡り、28市町を訪れて延べ728ヶ所の配本所を廻った。

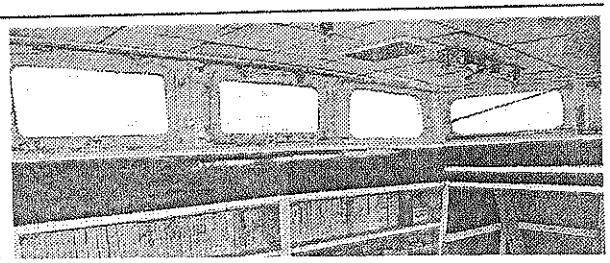
特に小学生を中心に多くの島民に親しまれ、瀬戸田町にも当初から寄港していた。船体の老朽化と島々に橋が架かり道路交通網の発達、自動車の普及から、81年7月に移動図書館車「みのり号」にバトンタッチ、廃船になった。

20年間の総航行距離は地球2周半分にあたる9万2000㎞。利用者数は延べ45万人で70万冊が貸し出された。

同11月に県から当時の豊田郡瀬戸田町に寄贈され、同町林、B&G財団瀬戸田海洋センターの敷地内に屋外展示された。

展示施設は目の高さに合わせるため船が半地に収まり、全体に屋根架けられている。なぜ瀬戸田町に寄贈されたかは不明だが、当時の政には瀬戸内文化の遺を後世に残したいという意思があったと思わる。展示の説明板には「化船『ひまわり』を永遠保存し文化教育資料として活用するため建設た」と記されている。

しかし廃船、保存か34年が経過し船体は傾が激しくほこりをかり、ガラスは割れたまになるなど地域の人かも忘れられてしまっ船の存在さえ知らない民や職員もいるほど



中國新聞　2015. 3月27日

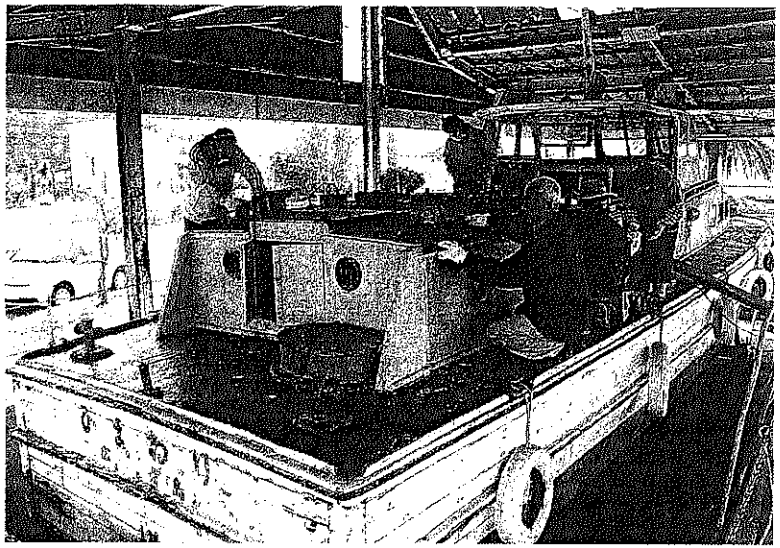
図書館船ひまわり保存を

1962～81年 県内離島に本届ける

尾道市瀬戸田町の住民有志たちが、全国唯一の図書館船として1981年まで瀬戸内海の離島に本を届け、引退後は同町で展示されてきた木造船の保存を求めている。市は、老朽化した船の解体を計画していたが、住民の声を受けて再検討を始めた。

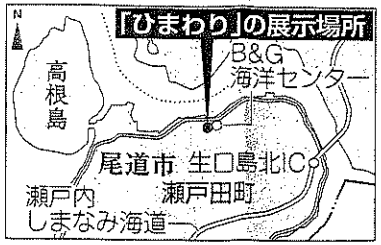
（新山京子）

瀬戸田 住民要請で解体保留



船体の補修作業を進める永井さん（手前右）たち

全長約14㍍、幅約3・7㍍の図書館船ひまわり。県立図書館（広島市中区）が、離島の人にも読書を楽しんでもらおうと、1962年4月に就航させた。小説、映画フィルムなど約1500点を積み、定期的に県内15島の旧24市町を訪問。81年7月の廃止までの約20年間で延べ58万7318人が利用し、貸出総数は36万5825冊に上った。



引退後の船体は、県から打診を受けた旧瀬戸田町が81年11月に寄贈を受け、町内で保管。83年5月からB&G海洋センターの敷地内で展示している。ただ、展示スペースには屋根しかなく、船体のペンキが剝がれ、窓が割れるなど傷みが目立っていた。

このため、合併後に引き継いだ市が解体方針を決めた。しかし、ことし2月中旬、市の方針を知った瀬戸田町の医師永井晃さん(70)が「島の歴史を語る遺産を失いたくない」と中止を要請。3月上旬から、市の了承を得て、地元などの友人6人と一緒に窓を取り換えたり、船体の傷んだ部分を削ったりしている。

市は、要請を受け、業者の入札まで済ませていた解体業務の契約を中止。船体の安全性をあらためて調査するなどし、住民の意見を聞きながら保存か解体かを決めるという。

永井さんたちは28、29の両日、地元の子どもたちと、船体に特徴だった白とオレンジのペンキを塗る予定。参加者を募っている。永井さんは「図書館船の功績を後世に伝えるため、残してほしい」と話している。同センター☎0845（27）3735。

山陽日日新聞　2016年4月9日(土曜日)

17日、瀬戸田町B&Gでまつり

世界で一隻の図書館船

「ひまわり」船内で読み聞かせも

瀬戸田町林、B&G瀬戸田海洋センターの敷地内に屋外展示されている元広島県立図書館の移動図書館船「ひまわり」で17日、「文化船ひまわりまつり」が開かれる。ワークショップや船内での読み聞かせがあり、音楽公演などを楽しむ。[幾野伝]

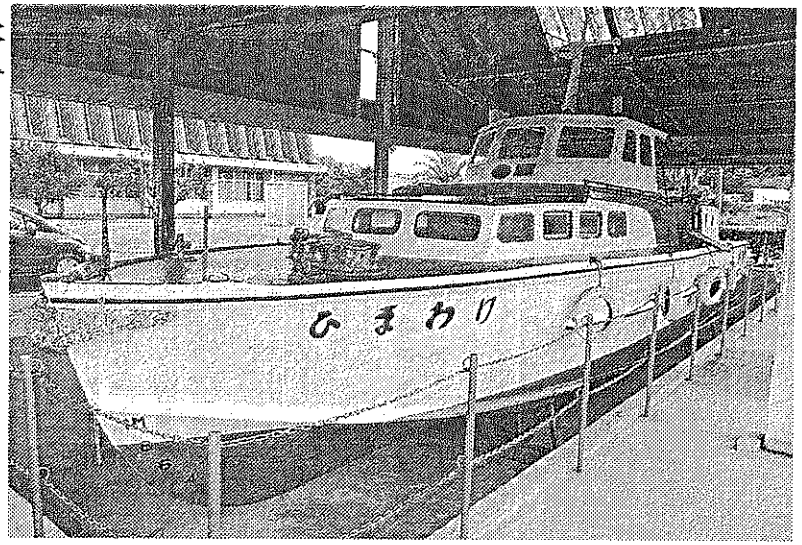
市教委は昨年初め、解体と撤去を決めて工事入札を行ない業者も決めていたが、町内の永井晃医師が中心になって「きれいに整備するので壊すのを待ってほしい」と市教委に要望。昨年春、ボランティア有志に瀬戸田中学校の生徒らが手伝って船体のペンキを塗り直し、船内も清掃するなど見事に瀬戸内の文化遺産として生き返った経緯がある。

まつりの主催は児童文学作家の林原玉枝さんや読み聞かせグループなど5団体でつくる実行委員会で、同日あるB&Gまつりに合わせて企画。

参加した子供に、自由に絵を描いてもらい、船に万国旗のように飾り付けていくワークショップや午前10時半からと午後2時からは船内で「ルピナス」のメンバーによる読み聞かせがある(人数限定)。

芝生広場では絵本の古本市、フルートコンサート、しまなみジュニアオーケストラは「ひまわり」が現役当時、島に近付くと寄港を知らせるために流していたワルツ「ドナウ川のさざなみ」などを演奏する。飲食のブースも出る。

林原さんは「世界でただ一隻の移動図書館船を見に来て下さい」と呼び掛けている。



島に残った文化遺産

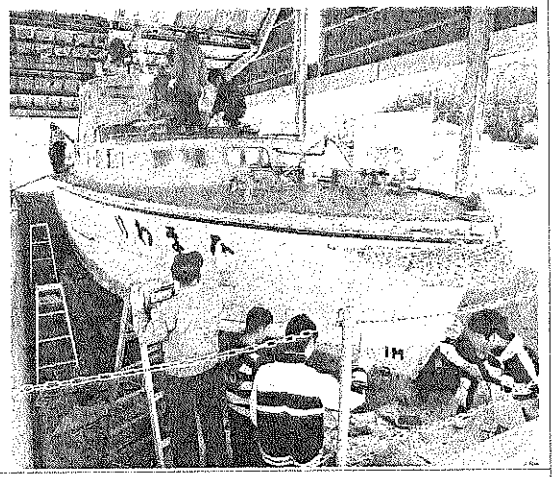
移動図書館船「ひまわり」(長さ14m)は「島嶼部の人達に読書に親しんでもらいたい」と1962年4月に就航した木造船。児童書や映画のフィルムを積んで15の島々の28市町村を廻り、まだ学校図書が充実していなかった当時、特に小学生に親しまれた。県立図書館では「文化船」と呼んでいた。

車社会に変わって81年7月に移動図書館車に交代し廃船。20年間に9万2000kmを航行し、延べ45万人が利用、70万冊が貸し出されたと記録に残っている。

寄港地の一つだった当時の豊田郡瀬戸田町(和気成祥町長)が文化教育資料として譲り受けた。専用の屋根を架け、目線に合わせて半地下に収めて保存展示してきたが、30年以上が経過し、船体の外装は剥げ、ガラスは割れたままでほこりを被って放置状態になって住民からも忘れられていた。

せとうちタイムズ　2016 / 4/9

図書館船ひまわり囲み 瀬戸田町で住民が祭り



かつて瀬戸内の島々を巡り文化を届けつづけた、広島県立図書館文化船があった。

その名を「ひまわり」と言う。就航を終えて35年経つ現在、B&G瀬戸田海洋センターに係留されている。昨年3月には、住民や瀬戸田中学校の生徒たちがペンキ塗りを行なった＝写真(右)。

それにつづき住民たちが17日(日)午前10時、同所で「ひまわりまつり」を開く。雨天の場合は体育館。午前、午後2回にわたって船内で読み聞かせなどがある。

他に、瀬戸田中吹奏楽部▽フルート演奏▽フラダンス▽ヒップホップダンス▽健康体操▽バイオリン演奏▽オカリナ&ハーモニカ演奏▽フリーマーケット▽プチマルシェ▽ワークショップ▽青空古本屋など。

【問い合わせ】☎0845・27・3735。

因島技術 初任者研

造船技術の継承と人材育成をめざす因島技術センター（秋吉公廣会長）の初任者研修が6日、内海造船因島工場で始まり、10社56人が参加した。6月30日

2016. 4月18日

中國新聞

懐かし図書館船 絵本読み聞かせ

瀬戸田でイベント

全国唯一の図書館船として1960年代から約20年間、瀬戸内海の離島に本を届けた「ひまわり」の歴史を伝えるイベントが17日、船が展示されている尾道市瀬戸田町、瀬戸田町B&G海洋センターであった。木造の船内で絵本の読み聞かせなどがあり、家族連れでにぎわった。

船内で「ひまわり」の歴史や絵本の読み聞かせを聞く親子

棚には当時の本が並ぶ。尾道市のグループが、船が小説や映画フィルムなどを積んで島民に届けた歴史を親子に説明。絵本を読み聞かせたり、歌を一緒に歌ったりして過ごした。

船上では子どもたちが「ひまわり」を色とりどりの布に描き、船を囲むチェーンに飾った。記念撮影する人もいた。家族で訪れた同町の主婦片山みゆきさん(42)は「笑顔で船を迎えた島の人たちの様子が思い浮かびました」と話していた。

船は県立図書館（広島市中区）が62年に就航。81年に廃止されるまで定期的に県内15島を巡った。イベントは、船の活用を呼び掛ける地元住民たちでつくる実行委員会が初めて企画した。（新山京子）